

## ユジノサハリンスク駐在員事務所

### 【ロシアに咲く「百万本のバラ」】

ロシア人は歌やダンスが大好きです。「百万本のバラ」を誰もが知っています。日本では加藤登紀子さんのヒット曲として知られるこの歌は、ロシアの国民的歌手アラ・プガチョワさんの歌として旧ソ連時代から愛されています。

この6月に、加藤登紀子さんがサハリンとウラジオストクに渡航し、当地でコンサートを開催されました。お父様はサハリンが大好きで、25年前にコンサートの計画があったが、直前に他界されて実現しなかったそうです。念願のサハリンでのコンサートということで、会場のロシア人、日本人も感銘を受けながら聴き入るばかりでした。

コンサートの前日には、「百万本のバラ」プロジェクトのもう一つの柱として、当事務所が入居する北海道センターにてバラの記念植樹が行われました。サハリンにお越しの際は、このバラ園にもぜひお立ち寄り下さい。

なお、10月には札幌で、ウラジオストクで共演したロシア人アーティスト3人とともに加藤登紀子コンサートが開催されることが決定したそうです。日ロで奏でられる「百万本のバラ」を体感してみたいはいかがですか？



バラの記念植樹  
左から：加藤登紀子さん  
白畑さん(残留日本人会会長)  
平野総領事

達田 暢

## 日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

### サッカーW杯ちゃんと観ていましたか？

こちら中国でも、W杯開催期間中は、街の至る所をパブリックビューイングや万国旗が彩り、大変盛り上がったのですが、開催期間中にこんなジョークを何度も耳にしました「中国はW杯に出ている」。

“蒙牛”や“万达WANDA”という漢字の広告に見覚えがある人も多いのではないのでしょうか。中国企業は今大会の公式スポンサー20社中“各国最多の7社出場”。また、公式球やユニフォーム等の多くは中国製で、ピッチを

躍動した製品も”最多出場”。そして、中国国内だけでも約4万枚の観戦チケットが売れ、開催期間中に中国からロシアへ渡ったサッカーファンは約10万人。おそらく開催国のロシアを除けば“最多出場”です。

皆さんは、企業体力・国民の消費意欲をこれでもかと思いつけた中国が自国を誇らしげに語るジョークかとお思いでしょうが、ちゃんとオチがあります。「出ていないのはチームだけだ」。実はこの話、ナショナルチームのあまりの弱さを皮肉ったチャイニーズ・ブラックジョークです。



観戦の友“ビール”売場もW杯一色

村田 雄亮

## 北海道 ASEAN 事務所(シンガポール)

### oBike がシンガポール事業から撤退

シェア自転車事業大手の oBike は、先月 25 日、シンガポールにおけるサービスの終了を突如表明しました。5 億円以上のデポジットの返金、約 70,000 台の放置車両の撤去、収集された利用者情報の取扱いなど、今後の動向に注目が集まっています。

2017 年 1 月の oBike による事業開始を皮切りに、競合大手の Mobike や ofo 等が続々と参入し、小さな国土で 7 社が競合しました。市場拡大優先の緩やかな規制の下、QR コードで開錠し好きな場所で乗り降りできる利便性で市場は拡大しまし

たが、迷惑駐輪の問題も顕在化しました。事業者負担が増す今後の規制強化を前に、わずか 1 年半で oBike を含む 3 社が許認可更新を見送り、事業から撤退する急展開を迎えています。

地元紙は、当面の不採算性を、収集したデータに基づくイノベーションの将来価値で補う「事業売却ありき」の戦略が困難に直面したと報じています。スタートアップ企業の世界的な中心地（ハブ化）を目指す同国は、スタートアップ・エコシステム（2017 年）の地域別ランキングで、北京（全体 4 位）に次ぐアジア第 2 位（全体 12 位）に位置します。社会全体が実験場のような同国において、本事例は大勢に影響を与えないまでも、成長戦略の描き方に一石を投じる出来事になると考えられます。



市中に残された oBike の車両

矢野 裕之